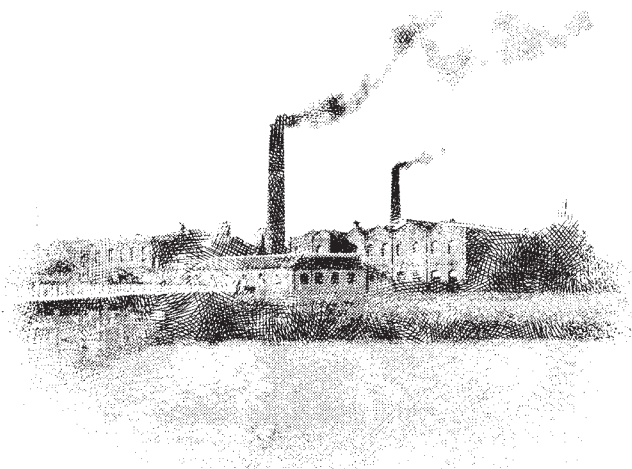


## 第2章

### 日本の紡績業の勃興と日本綿花設立



**Hassojitz**

総合商社 双日  
未来を創造した先駆者たち



佐野常樹、広岡信五郎・浅子、五代友厚、渋沢栄一  
～日本綿花の先駆者たちと関係した財界人

# 大阪

維新後、政治・経済の中心地が東京に移り

江戸時代の経済を支えた大阪商人たちは岐路に立たされていた



そこに現れたのが  
明治財界の巨頭  
五代友厚だった



大阪商人は  
結束しなければ  
なりません！

そのために  
西洋式の巨大資本を  
必要とするビジネスを  
つくりましょう

銀行、鉄道、ガス、  
そして注目は  
紡績です

私は薩摩で  
鹿児島紡績の  
紡績機械の調達  
のために  
ヨーロッパに  
出かけた

本ビジネスは  
きつと日本を  
支えるはずですよ

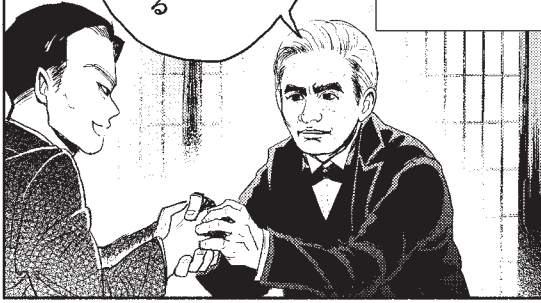
大阪商人が  
再び日本を  
支えるのです

明治一（一八七八）年  
五代は大阪商法会議所を設立  
大阪商人の結束を促した

大阪財界

三巨頭の一人  
田中市兵衛も  
五代に共鳴

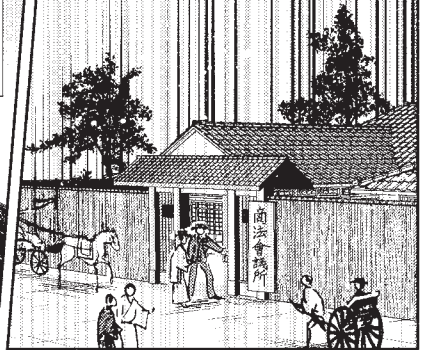
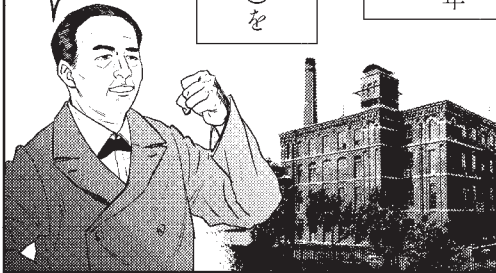
五代はん  
感動しましたわ  
ここまで  
大阪のために  
考えてくれてはる  
とは……



さらに  
明治一五（一八八二）年  
にはあの  
渋沢栄一も動いた

華族から出資を募り  
大阪紡績（現・東洋紡）を  
設立したのだ

これが  
合本の力じゃ！



そして  
双日のDNAとなる  
ある企業も  
産声をあげようと  
していた――

江戸初期から続く  
大阪の豪商・加島屋

ひろおかしごろう  
加島屋の分家  
五兵衛家を継いでいたが  
風流人としても知られ  
謡の名手であった

ガラガラ

「月清き、夜半とも見えず  
雲霧の、かかれば曇る  
心なるかな」……

お帰りなさい  
また謡遊び  
どすか

うむ確かに  
謡の集まり  
では  
あったが

実は尼崎の資産家が  
綿花を使って紡績会社を  
作りたいので協力を  
してくれないかという  
相談が謡の師匠経由で  
持ち込まれた

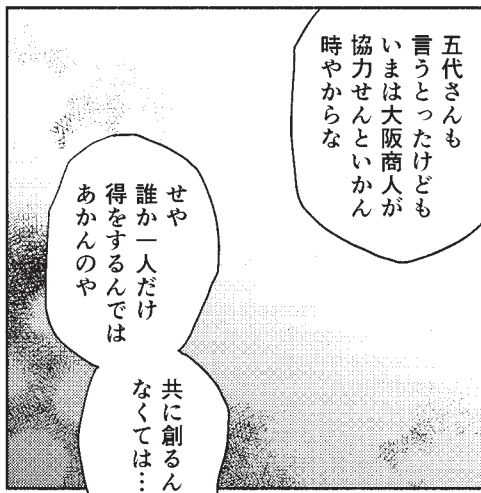
信五郎の  
もとはには優れた  
商才をもつ  
女性が嫁いて  
きていた

尼崎は広岡家  
由緒の地やし  
木綿も盛んやった  
なんとかして  
やりたいけども  
……

明治を代表する  
女性実業家  
として知られる  
ひろおかき  
広岡浅子である

紡績！  
ええやないどすか

みんな  
やりまひょうや

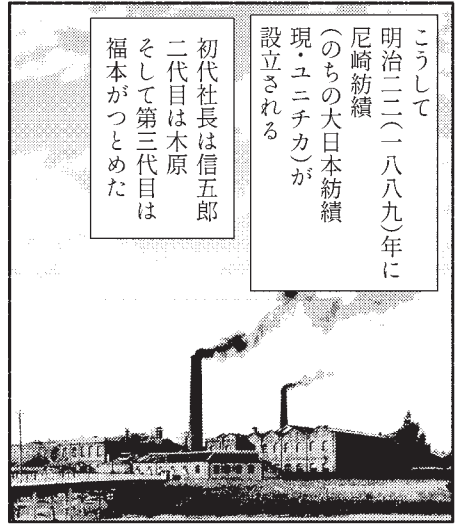
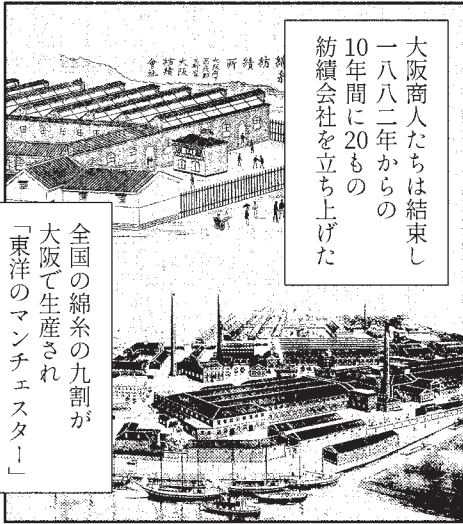


こうして  
明治二二（一八八九）年に  
尼崎紡績  
（のちの大日本紡績  
現・ユニチカ）が  
設立される

初代社長は信五郎  
二代目は木原  
そして三代目は  
福本がつとめた

大阪商人たちは結束し  
一八八二年からの  
10年間に20もの  
紡績会社を立ち上げた

全国の綿糸の九割が  
大阪で生産され  
「東洋のマンチエスター」と  
よばれるにいたる



しかし紡績会社が  
急激に増加し  
原料である綿花の  
調達が問題と  
なった

国内の綿花生産は  
非効率で価格も高い  
しかも政府は  
産業保護のために  
綿花輸入税を  
かけておる

英国からは機械式で  
大量生産された綿製品が  
どんどん入ってきている  
国内の伝統的家庭内  
手工業は壊滅的や

これではせっかくの  
紡績業も外国に勝つ  
こともできん

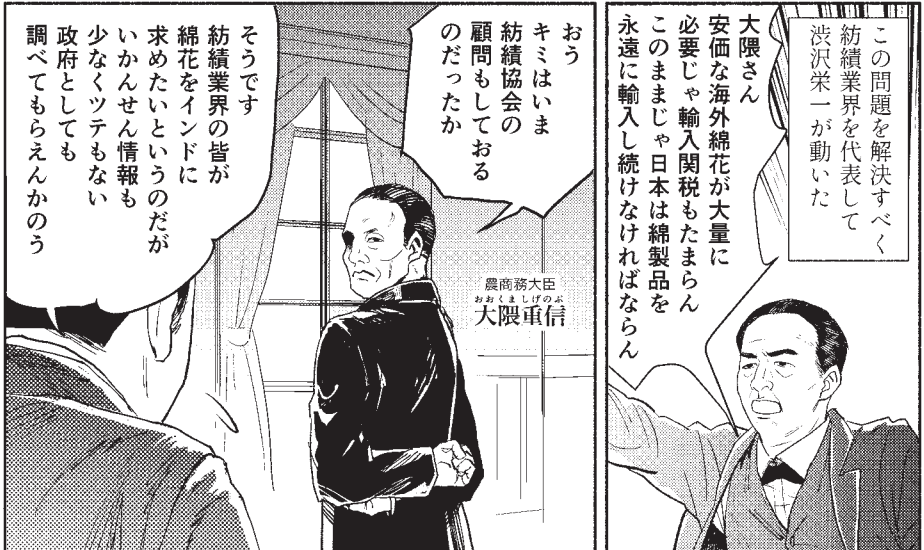
この問題を解決すべく  
紡績業界を代表して  
波沢栄一が動いた

大隈さん  
安価な海外綿花が大量に  
必要じゃ輸入関税もたまらん  
このまじや日本は綿製品を  
永遠に輸入し続けなければならん

おう  
キミはいま  
紡績協会の  
顧問もしておる  
のだったか

農商務大臣  
おおくましのぶ  
大隈重信

そうです  
紡績業界の皆が  
綿花をインドに  
求めたいというのだが  
いかんせん情報も  
少なくツテもない  
政府としても  
調べてもらえんかのう



そういうことなら  
うってつけの  
人材がおる

佐野くん

はい

この渋沢が  
いま日本の紡績業には  
インド綿花が必要だと  
言うておる  
インドに  
調査団の団長  
として行ってくれ

わかりました  
すぐに準備  
いたします!

農商務書記官  
佐野常樹

助かります

いや  
これは私事では  
ないからな

すべては  
日本の近代化の  
ためである!

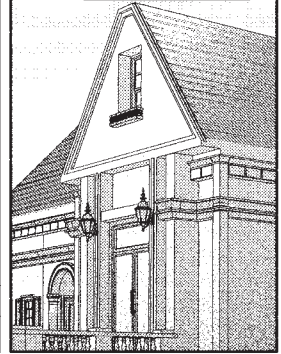
うむ  
これなら  
品質も  
充分だ

良い報告が  
できそうだ

佐野常樹農商務書記官を  
代表とする視察団は  
この調査結果を大限に  
提出した



しかし、その頃  
紡績業界の各社は  
海外からの綿花調達を  
外国商館に頼ら  
ざるをえず



この値段が  
嫌なら売らない

彼らは暴利を  
むさぼっていた

そんな  
いくらなんでも  
高すぎですわ  
……

こっちはわざわざ  
日本人に売る必要  
なんか無いんだ！  
大英帝国が買って  
くれるからな



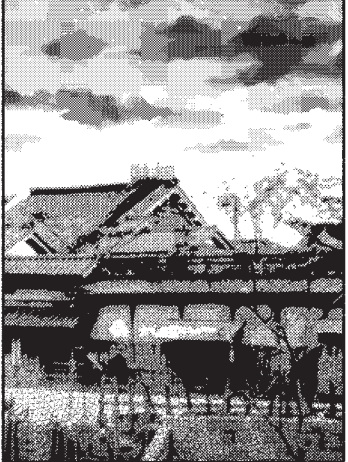
紡績は国の  
重要産業に発展  
しようとしとる  
せやのに  
原料の調達は  
外国商館に依存  
してええんやろ  
か……

やっぱり  
自分らで  
やらな  
あかんのと  
ちやうか？

大阪商人たちに  
とっては  
解決せねばならない  
問題であった



インド綿の品質は  
分かったし政府も  
綿花の輸入関税を  
何とかしてくれそう  
やけどこのままで  
いかなあ……





こうして  
明治二五(一八九二)年  
摂津紡績、平野紡績  
天満紡績、尼崎紡績  
4社の首脳陣  
そして大阪の有力者  
25名が発起人となり

日本綿花株式会社  
を設立した



初代社長は  
インド綿調査団の  
佐野常樹が就任した

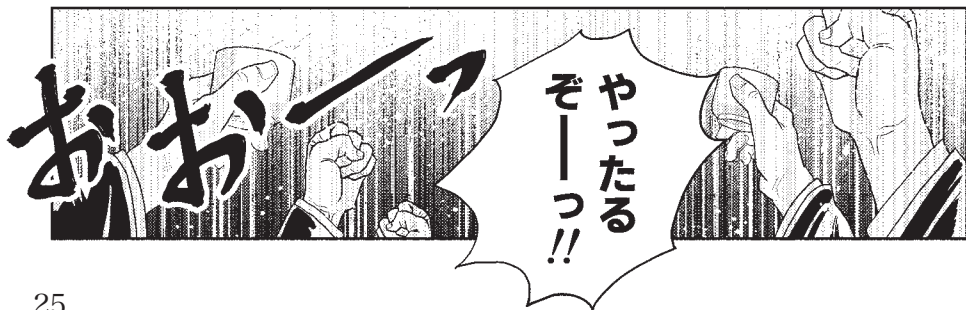
ここに

日本人の手による  
インド綿と米綿の売買  
貿易業を経営しようという  
動きが起きてきたが  
まだ需要家の要望を  
満たすに至っていない

このまま傍観すれば  
必ず外国商人が  
機に乗じて日本市場を  
支配する情勢である

これは  
手数料とか諸経費の  
得失の問題ではなく  
わが国の基幹産業として  
発展途上にある

綿糸紡績業の命運を  
左右する重要問題であり  
われわれが会社を  
設立する使命でもある





日本綿花の本社は中之島に設立される

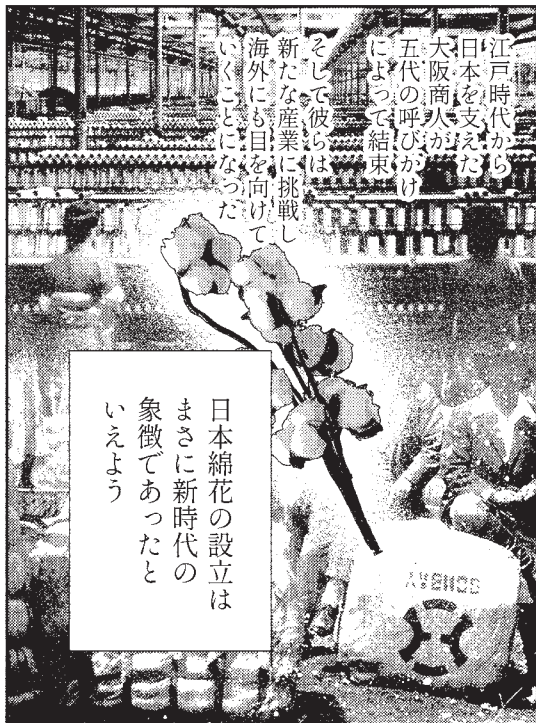
その場所は亡くなった五代友厚邸の隣地であった

旦那さんここからが本番ですなあ

うむほうやな

五代さんも見守ってくれはる絶対に成功させよ

おやおおもちろんや



五代友厚の蒔いた種は芽吹き、大きく育ってゆく

大阪商會法議所新築園圖

大阪商會法議所は明治二四（一八九二）年に大阪商業會議所に改組

江戸時代から日本を支えた大阪商人が五代の呼びかけによって結束を遂げ、新しい産業に挑戦し海外にも目を向けていくことになった

日本綿花の設立はまさに新時代の象徴であったといえよう

発起人50人のうち10名は日本綿花の発起人であり

その後も会頭は日本綿花の発起人が多くつとめた